小笠原先生の奈良・古代史講座のご案内

主　催　奈良歴史遺産市民ネットワーク
事務局　〒630-8306　奈良市紀寺町８８３－４
℡・fax　０７４２－２３－３９３４　小宮みち江

講　師　**小笠原好彦氏**　滋賀大学名誉教授・文化財保存全国協議会常任委員

講座会場　奈良県教育会館　開講13時30分（開場13時）（奈良県文化会館西隣　近鉄奈良駅より徒歩５分）

参加資料代　500円

８月は休講とさせていただきます

9月8日（火）　《難波の堀江と難波津・市》

瀬戸内海の東端に位置する難波に設けられた難波津は、古代には諸物資の流通外交で、最も重要な役割を果たしたところです。この難波津の位置には諸説あります。この難波津の近くに難波市も設けられていました。ここでは、孝徳朝の難波遷都、また複都制の聖武朝の難波と難波津・難波市がはたした役割を考えてみます。

10月13日（火）　《二上山・竜山での石材の産出と流通》

古墳時代には石棺の素材として、また古代には建造物に使用する石材などとして、二上山と播磨の竜山石の凝灰岩が多く使用されています。この凝灰岩は火山灰が凝固した岩石で、やわらかい石材だけに、古代にも多く使用されました。これらの二上山と竜山で産出した凝灰岩の産出と利用の実態を遺跡と文献から考えてみます。

11月10日（火）　《奈良時代の贄（にえ）木簡と調木簡》

古代の朝廷は、各地に朝廷と深いつながりをもつ地を設け、そこから山海の特産品を貢納させていました。これが贄（にえ）と呼ばれるものです。大化の改新後は、公地公民制が採用されるようになり、祖・庸のほかに地域の特産物を調として貢納する税が設けられました。しかし、一部の地域の民は、調の他に、地域の特産物を贄として貢納した地域がありました。その実態を藤原宮・平城宮出土の木簡から考えます。

志摩国の贄木簡
答志郷（現在の三重県鳥羽市答志島）の鰒の荒干しの荷札（二条大路木簡）。

☆☆☆　事前の申し込みは要りません。
どなたでも参加できます　☆☆☆